

讀謳我未來

～ 進路指導室だより ～

鹿児島県立曾於高等学校

第52号

令和4年2月18日(金)発行

先輩の合格・内定体験記から『今の自分にできること』を考えよう！

3年生(本校6期生)の卒業が近づいています。現在、14名ほどの生徒が大学合格を勝ち取るため、最後の勝負に挑んでいます。本校では、例年、2月の中旬～下旬のこの時期に、進路指導部の企画行事として「学科を超えた受験報告会」を実施しています。しかしながら、今年度も新型コロナウイルス感染予防の観点から、学科別朝礼、課題研究発表会などの時間を使い、工夫しながら受験報告会を実施してきました。

そこで、今回の進路指導室だよりでは、3年生が後輩の皆さんへ寄せてくれた「合格・内定体験記」を紙面で紹介することにします。

◆宮崎産業経営大学

普通科

私は中学生の頃から、将来は曾於市役所に勤めて、地域の方々が暮らしやすいまちづくりに貢献したいと考えていました。

高校入学後すぐに、公務員を目指すにはどのような進路を歩めばよいのかをインターネットや進路指導室の資料等で調べ、大学に進学することを決めました。そして、公務員試験のために実践的で効率のよい学習ができる大学の資料を取り寄せて研究したり、何度もオープンキャンパスに参加したりする中で、2年生の初めには志望校を決定しました。オープンキャンパスと個別訪問の際に、国語総合と小論文の対策をしておいた方がよいというアドバイスをいただいたので、入試当日まで毎日過去問だけでなく、国語の教科担任の先生に添削指導をお願いして、与えられた課題に取り組んで勉強しました。

受験勉強を振り返ると、クラスメイトが次々と進路を決定していく姿を見て、不安と焦りを感じ、受験勉強を投げ出したくなることが何度もありました。しかし、その度に自分を勇気づけてくれた両親や先生方、友人の「頑張っ！」という言葉に支えられました。

これまでの自分の努力が無駄にならないように4月からも進路実現に向けて一日一日を大切に過ごしていきたいです。

◆株式会社 森ファーム

畜産食農科

私が進路について考え出したのは、3年生になってからです。私の将来の夢は、牛を育てることでした。一生懸命に牛を育てて、私が育てた牛を消費者の方に食べてもらい、おいしいと笑顔になってほしいと思っていました。そのため、肥育牛の飼育を行っている企業を求人票で調べることにしました。たくさんの求人票の中から何社かをピックアップして、進路指導室に行き、求人票の印刷をしたり、希望する企業のパンフレットを熟読したりして、進路研究を深めました。

次に企業見学に行きました。パンフレットだけではわからない会社の雰囲気や企業形態を知ることができるので、後輩のみなさんも積極的に参加することをおすすめします。私は合計で4社の企業を見学し、親との話し合いを経て、第一希望の会社を決定することができました。進路選択の際、私の背中を押してくれた親にとっても感謝しています。

第一希望の企業が決まると、夏休みのすべての時間を、履歴書の作成と面接の練習の時間に充てました。自分の考えていることや企業へ入社したい気持ちを言葉にすることが難しく、先生方に添削・指導をしていただいたり、友人に確認してもらったりしながら、よりよいものを作り上げていきました。

そして、いよいよ試験当日。とても緊張しましたが、自分が準備してきたことをすべて出し切り、無事内定をいただくことができました。

◆住友ゴム工業 株式会社

機械電子科

私が住友ゴムを志望した理由は、先輩方が優しいなど職場環境が整っている事、大企業に就職したいという事、タイヤの生産などにおける技術力が世界でもトップクラスに高い事の3つが大きな理由です。あまり知られていないですが、ゴルフクラブのブランドを有しており、ゼクシオやスリクソンなどがあります。

住友ゴム工業株式会社の試験内容は面接、作文、筆記、クレペリン検査、適性検査です。私の行った試験対策は、面接は何度も練習し、他の科の先生にも見てもらいました。作文は、用紙に8割から9割書ける程度まで練習しました。筆記の問題は、SPIの問題集をたくさん解いて基礎的な学力を養いました。クレペリン検査は、ひたすら足し算をする検査で、集中力を鍛えれば問題ないです。私が最も苦労したのは適性検査です。住友ゴムは、とにかく体力が必要なため、腹筋・背筋・握力・腕立て伏せなどを行う習慣をつけるなどの対策を行いました。

最後に、後輩へのアドバイスとして、自分の長所をしっかりと把握しておくこと、部活や学校内・外での活動で最も頑張ったこと、入社した後自分は何がしたいか、そして何よりも志望動機が必ず大切になります。この4つは今のうちに考えておくといいと思います。私は、部活動に所属していなかった（この会社は、部活動への所属を重視する傾向あり）のでその点で大きな不安がありましたが、ほかの要素を十分に用意して試験に臨みました。後輩の皆さんも自分の進路に悔いを残さないように頑張っておいてください。

◆大分県立芸術文化短期大学

商業科

私はパソコンや情報技術について学ぶことのできる学校に進学したいと考えていました。この学校は担任の先生から紹介されて知りました。ここでは、プログラミング演習やアプリケーション開発などの実習をとおしてパソコンを活用する力を身に付け、情報発信技術や情報モラルなどの知識も身に付けることが可能であることを知りました。また、当時将来の仕事がはっきりしていなかった私にとって、「情報メディア」「地域ビジネス」「心理スポーツ」の三つのコースから選んで学べることは大きな魅力でした。この学校を志望すると決めたのは夏休み後半で、11月下旬に行われる入試に備えて、対策を始めました。試験内容は小論文と面接でした。小論文は夏休みから対策を始めていて、まず、経済の基礎や社会問題について知り、それに対する感想を書くことで、文章を書く力を身に付ける練習をしました。その後は、受験生それぞれに担当の先生がつくことになっており、そこから小論文と面接対策を本格的に行いました。私には2人の担当の先生についていただき、対策をしていくことになりましたが、2人の先生方から出される課題を両立することはとても大変なことでした。具体的な内容としては、一つの小論文の課題を3~4回ほど繰り返し解くことで、文章を書く力や言葉の言い換え方を身に付けました。また、面接対策としては、面接ノートを作成して、志望理由や大学で頑張りたいことなどの質問に対する返答を考え、2週間前からは担当の先生と個人面接に取り組んでいました。入試に向けて対策している間、小論文をうまくかけなかったり、面接で質問に対してうまく返答できなかったりなど、不安やプレッシャーを感じることも多くありました。そんな中、友達と抱えている悩みを話し合ったり、気分転換をしたりすることで、友達と共に頑張ることの大切さを改めて感じることができました。

入試は志望大学で行われました。慣れない環境で、知っている人がいなかったため、受験のプレッシャーと孤独への寂しさを感じながら入試を受けました。流れとしては小論文の次に面接が行われました。試験が開始されるまでの待ち時間が長かったことが特に印象に残っています。この待ち時間に、深呼吸してリラックスしたり、練習してきたことをゆっくり見返したりして過ごすことができました。

受験を通して、入試への対策は早めに取り組むことと、焦らずに落ち着いて取り組むことが大事だと感じました。今、進路に向けて不安や悩みを抱えている人も多くいると思います。そんな時は家族や先生、友達に相談することが大切です。